



# 統計関連ポリシーの設定

この章は、次の内容で構成されています。

- ・統計情報収集ポリシーの設定, 1 ページ
- ・統計情報しきい値ポリシーの設定, 4 ページ

## 統計情報収集ポリシーの設定

### 統計情報収集ポリシー

統計情報収集ポリシーは、統計情報を収集する頻度（収集インターバル）、および統計情報を報告する頻度（報告インターバル）を定義します。報告インターバル中に複数の統計データポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが Cisco UCS Manager に提供されます。

NIC 統計情報の場合、Cisco UCS Manager は最後の統計情報収集以降の平均値、最小値、最大値の変化を表示します。値が 0 の場合、最後の収集以降変化はありません。

統計情報は、Cisco UCS システムの次の 5 種類の機能エリアについて収集し、報告できます。

- ・アダプタ：アダプタ関連統計情報
- ・シャーシ：ブレードシャーシ関連統計情報
- ・ホスト：このポリシーは、将来サポートされる機能のためのプレースホルダです
- ・ポート：サーバポート、アップリンクイーサネットポート、およびアップリンク ファイバチャネルポートを含むポートに関連した統計情報
- ・サーバ：サーバ関連統計情報



(注) Cisco UCS Manager には、5つの機能エリアそれぞれについて、デフォルト統計情報収集ポリシーが1つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更することだけが可能です。

## 統計情報収集ポリシーの変更



(注) Cisco UCS Manager には、5つの機能エリアそれぞれについて、デフォルト統計情報収集ポリシーが1つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更することだけが可能です。

### 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
2. [Admin] タブで、[All] > [Stats Management] > [Stats] を展開します。
3. 変更するポリシーを右クリックし、[Modify Collection Policy] を選択します。
4. [Modify Collection Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。
5. [OK] をクリックします。

### 手順の詳細

**ステップ1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。

**ステップ2** [Admin] タブで、[All] > [Stats Management] > [Stats] を展開します。

**ステップ3** 変更するポリシーを右クリックし、[Modify Collection Policy] を選択します。

**ステップ4** [Modify Collection Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	収集ポリシーの名前。 この名前は、Cisco UCS によって割り当てられ、変更できません。
[Collection Interval] フィールド	データのレコーディングから次のレコーディングまでファブリックインターネットが待機する時間の長さ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 30 Seconds</li> <li>• 1 Minute</li> <li>• 2 Minutes</li> <li>• 5 Minutes</li> </ul>

名前	説明
[Reporting Interval] フィールド	<p>カウンタについて収集されたデータが Cisco UCS Manager に送信されるまでファブリック インターコネクトが待機する時間の長さ。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2 Minutes</li> <li>• 15 Minutes</li> <li>• 30 Minutes</li> <li>• 60 Minutes</li> <li>• 2 Hours</li> <li>• 4 Hours</li> <li>• 8 Hours</li> </ul> <p>この時間が経過すると、ファブリック インターコネクトによって、Cisco UCS Manager に最後に情報を送信してから収集されたすべてのデータがグループ化され、そのグループから次の 4 種類の情報が抽出されて Cisco UCS Manager に送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最後に収集された統計情報</li> <li>• このグループの統計情報の平均値</li> <li>• このグループ内の最大値</li> <li>• このグループ内の最小値</li> </ul> <p>たとえば、収集インターバルを 1 分に設定し、報告インターバルを 15 分に設定した場合、ファブリック インターコネクトによって 15 分の報告インターバルに 15 個のサンプルが収集されます。Cisco UCS Manager に 15 個の統計情報が送信される代わりに、グループ全体の平均値、最小値、および最大値と一緒に最新のレコーディングだけが送信されます。</p>
[States] セクション	<p>[現在のタスク] フィールド</p> <p>このコンポーネントの代わりに実行中のタスク。 詳細については、関連する [FSM] タブを参照してください。</p> <p>(注) 現在のタスクが存在しない場合、このフィールドは表示されません。</p>

ステップ5 [OK] をクリックします。

# 統計情報しきい値ポリシーの設定

## 統計情報しきい値ポリシー

統計情報しきい値ポリシーは、システムの特定の側面についての統計情報をモニタし、しきい値を超えた場合にはイベントを生成します。最小値と最大値の両方のしきい値を設定できます。たとえば、CPU の温度が特定の値を超えた場合や、サーバを過度に使用していたり、サーバの使用に余裕がある場合には、アラームを発生するようにポリシーを設定できます。

これらのしきい値ポリシーが、CIMC などのエンドポイントに適用される、ハードウェアやデバイス レベルのしきい値を制御することはありません。このしきい値は、製造時にハードウェア コンポーネントに焼き付けられます。

Cisco UCS を使用して、次のコンポーネントに対して統計情報のしきい値ポリシーを設定できます。

- サーバおよびサーバ コンポーネント
- アップリンクのイーサネット ポート
- イーサネット サーバ ポート、シャーシ、およびファブリック インターコネクト
- ファイバチャネル ポート



(注)

イーサネット サーバ ポート、アップリンクのイーサネット ポート、またはアップリンクのファイバチャネル ポートには、統計情報のしきい値ポリシーを作成したり、削除できません。既存のデフォルト ポリシーの設定だけを行うことができます。

## サーバおよびサーバ コンポーネントのしきい値ポリシーの作成



ヒント

この手順では、[Server] タブでサーバおよびサーバ コンポーネントのしきい値ポリシーを作成する方法について説明します。これらのしきい値は、[LAN] タブ、[SAN] タブの [Policies] ノードの適切な組織内、および [Admin] タブの [Stats Management] ノードでも作成し、設定できます。

## 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。
2. [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] を展開します。
3. ポリシーを作成する組織のノードを展開します。
4. [Threshold Policies] を右クリックし、[Create Threshold Policy] を選択します。
5. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Define Name and Description] ページで、次の手順を実行します。
6. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Threshold Classes] ページで、次の手順を実行します。
7. [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
8. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Threshold Classes] ページで、次の手順を実行します。
  - ポリシーの別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 6 および 7 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。
9. [OK] をクリックします。

## 手順の詳細

**ステップ1** [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。

**ステップ2** [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] を展開します。

**ステップ3** ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

**ステップ4** [Threshold Policies] を右クリックし、[Create Threshold Policy] を選択します。

**ステップ5** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Define Name and Description] ページで、次の手順を実行します。

a) 次のフィールドに入力します。

名前	説明
[名前] フィールド	ポリシーの名前。 この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。

名前	説明
[説明] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーが使用される場所と条件についての情報を持たせることを推奨します。</p> <p>256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号) 、\ (円記号) 、^ (カラット) 、" (二重引用符) 、= (等号) 、&gt; (大なり) 、&lt; (小なり) 、または' (一重引用符) は使用できません。</p>
[Owner] フィールド	<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ローカル] : このポリシーは、Cisco UCS ドメイン内のサービスプロファイルとサービスプロファイルテンプレートでのみ使用できます。</li> <li>• [グローバル移行中] : このポリシーの制御は、Cisco UCS Central に移行中です。移行が完了すると、このポリシーは Cisco UCS Central に登録されているすべての Cisco UCS ドメインで使用可能になります。</li> <li>• [グローバル] : このポリシーは、Cisco UCS Central で管理されます。このポリシーを変更する場合は、必ず Cisco UCS Central を使用して変更してください。</li> </ul>

- b) [Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Threshold Classes] ページで、次の手順を実行します。

- [Add] をクリックします。
- [Choose Statistics Class] ダイアログボックスの [Stat Class] ドロップダウンリストから、カスタムしきい値を設定する統計情報クラスを選択します。
- [Next] をクリックします。

**ステップ 7** [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。

- [Add] をクリックします。  
[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。
- [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
- [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
- [Alarm Triggers (Above Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの 1 つ以上をオンにします。
  - Critical
  - Major
  - Minor

- Warning
- Condition
- Info

- e) [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
- f) [Alarm Triggers (Below Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの 1 つ以上をオンにします。
  - Info
  - Condition
  - Warning
  - Minor
  - Major
  - Critical
- g) [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
- h) [Finish Stage] をクリックします。
- i) 次のいずれかを実行します。
  - クラスに別のしきい値のプロパティを定義するには、ステップ 7 を繰り返します。
  - クラスに必要なすべてのプロパティを定義したら、[Finish Stage] をクリックします。

**ステップ8** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Threshold Classes] ページで、次の手順を実行します。

- ポリシーの別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 6 および 7 を繰り返します。
- ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

**ステップ9** [OK] をクリックします。

## 既存のサーバおよびサーバコンポーネントしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加



### ヒント

この手順では、[Server] タブでサーバおよびサーバコンポーネントのしきい値ポリシーにしきい値クラスを追加する方法を示します。これらのしきい値は、[LAN] タブ、[SAN] タブ、[Policies] ノードの適切な組織内、および[Admin] タブの [Stats Management] ノードでも作成し、設定できます。

既存のサーバおよびサーバコンポーネントしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

## 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。
2. [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] > [*Organization\_Name*] を展開します。
3. [Threshold Policies] ノードを展開します。
4. しきい値クラスを追加するポリシーを右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
5. [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
6. [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
7. [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。
  - ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。
8. [OK] をクリックします。

## 手順の詳細

---

**ステップ 1** [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。

**ステップ 2** [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] > [*Organization\_Name*] を展開します。

**ステップ 3** [Threshold Policies] ノードを展開します。

**ステップ 4** しきい値クラスを追加するポリシーを右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。

**ステップ 5** [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。

- a) [Stat Class] ドロップダウンリストから、カスタムしきい値を設定する統計情報クラスを選択します。
- b) [Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。

- a) [Add] をクリックします。

[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。

- b) [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
- c) [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
- d) [Alarm Triggers (Above Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの 1 つまたは複数をオンにします。
  - Critical
  - Major
  - Minor
  - Warning
  - Condition

- Info
- e) [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
- f) [Alarm Triggers (Below Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
- Info
  - Condition
  - Warning
  - Minor
  - Major
  - Critical
- g) [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
- h) [Finish Stage] をクリックします。
- i) 次のいずれかを実行します。
- クラスに別のしきい値プロパティを定義するには、ステップ6を繰り返します。
  - クラスに必要なすべてのプロパティを定義したら、[Finish Stage] をクリックします。

**ステップ7** [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。

- ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ5および6を繰り返します。
- ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

**ステップ8** [OK] をクリックします。

---

## サーバおよびサーバコンポーネントのしきい値ポリシーの削除

### 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。
2. [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] > [*Organization\_Name*] を展開します。
3. [Threshold Policies] ノードを展開します。
4. 削除するポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
5. Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

■ アップリンク イーサネット ポートしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

## 手順の詳細

- 
- ステップ1** [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。
  - ステップ2** [Servers] タブで、[Servers] > [Policies] > [Organization\_Name] を展開します。
  - ステップ3** [Threshold Policies] ノードを展開します。
  - ステップ4** 削除するポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。
  - ステップ5** Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- 

## アップリンク イーサネット ポートしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加



### ヒント

アップリンク イーサネット ポートしきい値ポリシーは作成できません。デフォルト ポリシーを修正または削除するだけです。

## 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [LAN] タブをクリックします。
2. [LAN] タブで、[LAN] > [LAN Cloud] を展開します。
3. [Threshold Policies] ノードを展開します。
4. [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
5. [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
6. [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
7. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。
  - ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

## 手順の詳細

- ステップ1** [Navigation] ペインの [LAN] タブをクリックします。
- ステップ2** [LAN] タブで、[LAN] > [LAN Cloud] を展開します。
- ステップ3** [Threshold Policies] ノードを展開します。
- ステップ4** [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
- ステップ5** [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
- [Stat Class] ドロップダウンリストから、カスタムしきい値を設定する統計情報クラスを選択します。
  - [Next] をクリックします。
- ステップ6** [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
- [Add] をクリックします。  
[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。
  - [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
  - [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
  - [Alarm Triggers (Above Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Critical
    - Major
    - Minor
    - Warning
    - Condition
    - Info
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Alarm Triggers (Below Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Info
    - Condition
    - Warning
    - Minor
    - Major
    - Critical
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Finish Stage] をクリックします。
  - 次のいずれかを実行します。

■ イーサネットサービスポート、シャーシ、およびファブリックインターフェイストラfficのしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

- クラスに別のしきい値プロパティを定義するには、ステップ 6 を繰り返します。
- クラスに必要なすべてのプロパティを定義したら、[Finish Stage] をクリックします。

**ステップ 7** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。

- ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
- ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

## イーサネットサービスポート、シャーシ、およびファブリックインターフェイストラfficのしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加



### ヒント

イーサネットサーバポート、シャーシ、およびファブリックインターフェイストラfficのしきい値ポリシーは作成できません。デフォルトポリシーを修正または削除するだけです。

### 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [LAN] タブをクリックします。
2. [LAN] タブで、[LAN] > [Internal LAN] を展開します。
3. [Threshold Policies] ノードを展開します。
4. [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
5. [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
6. [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
7. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。
  - ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

## 手順の詳細

- ステップ1** [Navigation] ペインの [LAN] タブをクリックします。
- ステップ2** [LAN] タブで、[LAN] > [Internal LAN] を展開します。
- ステップ3** [Threshold Policies] ノードを展開します。
- ステップ4** [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
- ステップ5** [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
- [Stat Class] ドロップダウンリストから、カスタムしきい値を設定する統計情報クラスを選択します。
  - [Next] をクリックします。
- ステップ6** [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
- [Add] をクリックします。  
[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。
  - [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
  - [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
  - [Alarm Triggers (Above Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Critical
    - Major
    - Minor
    - Warning
    - Condition
    - Info
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Alarm Triggers (Below Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Info
    - Condition
    - Warning
    - Minor
    - Major
    - Critical
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Finish Stage] をクリックします。
  - 次のいずれかを実行します。

## ■ ファイバチャネルポートしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

- クラスに別のしきい値プロパティを定義するには、ステップ 6 を繰り返します。
- クラスに必要なすべてのプロパティを定義したら、[Finish Stage] をクリックします。

**ステップ 7** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。

- ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。
- 

## ファイバチャネルポートしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

ファイバチャネルポートしきい値ポリシーは作成できません。デフォルトポリシーを修正または削除するだけです。

### 手順の概要

1. [Navigation] ペインの [SAN] タブをクリックします。
2. [SAN] タブで、[SAN] > [SAN Cloud] を展開します。
3. [Threshold Policies] ノードを展開します。
4. [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
5. [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
6. [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
7. [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。
  - ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。

## 手順の詳細

- ステップ1** [Navigation] ペインの [SAN] タブをクリックします。
- ステップ2** [SAN] タブで、[SAN] > [SAN Cloud] を展開します。
- ステップ3** [Threshold Policies] ノードを展開します。
- ステップ4** [Thr-policy-default] を右クリックして、[Create Threshold Class] を選択します。
- ステップ5** [Create Threshold Class] ウィザードの [Choose Statistics Class] ページで、次の手順を実行します。
- [Stat Class] ドロップダウンリストから、カスタムしきい値を設定する統計情報クラスを選択します。
  - [Next] をクリックします。
- ステップ6** [Threshold Definitions] ページで、次の手順を実行します。
- [Add] をクリックします。  
[Create Threshold Definition] ダイアログボックスが開きます。
  - [Property Type] フィールドから、クラスに定義するしきい値のプロパティを選択します。
  - [Normal Value] フィールドに、そのプロパティタイプに対して必要な値を入力します。
  - [Alarm Triggers (Above Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Critical
    - Major
    - Minor
    - Warning
    - Condition
    - Info
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Alarm Triggers (Below Normal Value)] フィールドで、次のチェックボックスの1つまたは複数をオンにします。
    - Info
    - Condition
    - Warning
    - Minor
    - Major
    - Critical
  - [Up] フィールドおよび[Down] フィールドに、アラームを発行する値の範囲を入力します。
  - [Finish Stage] をクリックします。
  - 次のいずれかを実行します。

## ■ ファイバチャネルポートしきい値ポリシーへのしきい値クラスの追加

- クラスに別のしきい値プロパティを定義するには、ステップ 6 を繰り返します。
- クラスに必要なすべてのプロパティを定義したら、[Finish Stage] をクリックします。

**ステップ 7** [Create Threshold Policy] ウィザードの [Create Threshold Class] ページで、次のいずれかの手順を実行します。

- ポリシーに別のしきい値クラスを設定するには、ステップ 5 および 6 を繰り返します。
  - ポリシーに必要なすべてのしきい値クラスを設定したら、[Finish] をクリックします。
-